

サルスベリの花 校長 三輪 秀文

本校の校門を入ると、すぐ正面に、ローターリーのように築山が設けられています。築山には、20周年の際に、PTA本部役員OB会のむらたけ会より寄贈された時計塔がそびえています。この時計塔は、三方向に時を知らせることができる、とても立派なものです。そのまわりには、草木が植樹されており、四中の四季を彩っています。

春には、薄紅色のハナミズキが時計塔を飾ります。そして、四中のホームページのトップも飾ってきました。

真夏を迎え、いまは燃えるように真っ赤な百日紅（ひゃくじつこう）が咲き誇っています。百日紅は、中国原産の落葉樹で、幹がつるつるして猿も滑り落ちてしまうという意味から、「サルスベリ」の別名もあります。白色や薄紅色のものをよく見か



けるのですが、こんなに深い紅色の百日紅は他にはないくらいで、本校の校門を彩ってくれています。

高浜虚子（たかはまきよし）が「炎天の 地上花あり 百日紅」と詠んだそうですが、このうだるような暑さの中で、ひときわ目を惹く百日紅を見るにつけ、虚子の句に共感する毎日が続いています。夏休みに入ったいま、この炎天下、部活動にやってくる生徒たちを、まるで「おはよう」と、お辞儀をするように校門で迎えつつ、酷暑に耐えて花を咲かせなさいよと、身をもって諭しているようにさえ見えます。

花の命は短いと言われますが、この百日紅は、秋口まで長く花を咲かせ続けるようで、「百日紅」の名前の由来となっているようです。この百日紅、四中にゆかりのあるどなたが植えたのでしょうか。「散れば咲き 散れば咲きして 百日紅」という加賀千代女（かがのちよじょ）の句もありますが、四中の生徒たちが七転び八起きの精神を抱いてくれることを願って、植樹してくれたのでしょうか、きっと。

校長室から真紅の百日紅を眺めながら、挫折や失敗体験の少なくなった今の子どもたちに、七転び八起きのチャレンジ精神豊かな生徒に育ててほしいと願わずにはおれません。これからも、ずっとずっと大切にしていきたい四中の四季を彩る花の代表格です。